



平成23年10月27日

	観光振興課
担当者	浦津、吉田
内線	2645
ダイヤルイン	895-2645

「長崎県観光動向調査」について

本県の平成23年4～6月期における観光動向について、
別添のとおりまとめましたので、お知らせいたします。

本県では、平成19年1月より、観光客数の動向（トレンド）を適宜把握する
目的で、年1回公表の「長崎県観光統計」とは別に、観光動向に関する調査を実施
し、3ヵ月毎にその結果を「長崎県観光動向調査」としてお知らせしております。

調査概要の詳細は別添資料をご参照願います。



長崎県観光動向調査 (平成23年4～6月分)

主要指標

4～6月

	対象施設	延宿泊客数 利用者数	対前年同期比	
			増減率	増減数
主要宿泊施設	168	963千人	0.5%	5千人
主要観光施設	24	1,789千人	9.2%	181千人
一支国博物館を含む25施設		1,815千人	9.8%	196千人

主要観光施設の動向については、「一支国博物館」の開館(22年3月)の影響が大きいため、同施設を除いた24施設の合計値を主要観光施設利用者数としている。

概況

主要宿泊施設の宿泊客数は、東日本大震災の影響を受け、4月は10.0%となったものの、修学旅行の振り替えによる増加や、ハウステンボスの集客増により、5月は+0.4%、6月は+8.3%と増加に転じ、4～6月期全体で0.5%に留まった。

主要観光施設の利用者数は、東日本大震災の影響を受け、4月は14.6%となったものの、修学旅行の振り替えによる増加により5月は8.8%、6月は3.9%と持ち直しの動きがみられ、4～6月期全体で9.2%となった。一方、一部龍馬関連施設では、前年からの反動により減少した。

ブロック別の主な増減要因

【長崎・西彼ブロック】

東日本大震災の影響による減少がみられたものの、修学旅行客の振り替えによる大幅な増加がみられ、4～6月期全体の宿泊客数は対前年+1.1%となった。一方、長崎歴史文化博物館など一部龍馬関連施設では、前年からの反動により減少した。

【佐世保・西海・東彼・北松ブロック】

東日本大震災の影響による減少がみられたものの、新アトラクションを追加したハウステンボスを中心に、国内観光客が大幅に増加したことにより、4～6月期全体の宿泊客数は対前年+5.2%となった。

【平戸・松浦ブロック】

東日本大震災の影響による減少がみられたものの、一部主要な宿泊施設において、団体客を中心に宿泊者数が大幅に増加し、4～6月期全体の宿泊客数は対前年+1.6%となった。

【諫早・大村ブロック】

ビジネス客を中心とした宿泊者数が大幅に増加したため、安定した伸びを続け、4～6月期全体の宿泊客数は対前年+15.7%と大幅に増加した。

【島原半島ブロック】

東日本大震災の影響による減少に加え、前年の小浜温泉足湯「ほっとふっと105」のオープン効果からの反動減により、4～6月期全体の宿泊客数は対前年-13.5%となった。

【五島ブロック】

東日本大震災の影響による減少がみられたものの、昨年口蹄疫の影響で中止されたトライアスロン大会が開催されたことにより、4～6月期全体の宿泊客数は対前年+3.4%となった。

【壱岐ブロック】

東日本大震災の影響による減少がみられたものの、昨年口蹄疫の影響で中止されたサイクルフェスティバルが開催されたことにより、4～6月期全体の宿泊客数は対前年-2.3%となった。

【対馬ブロック】

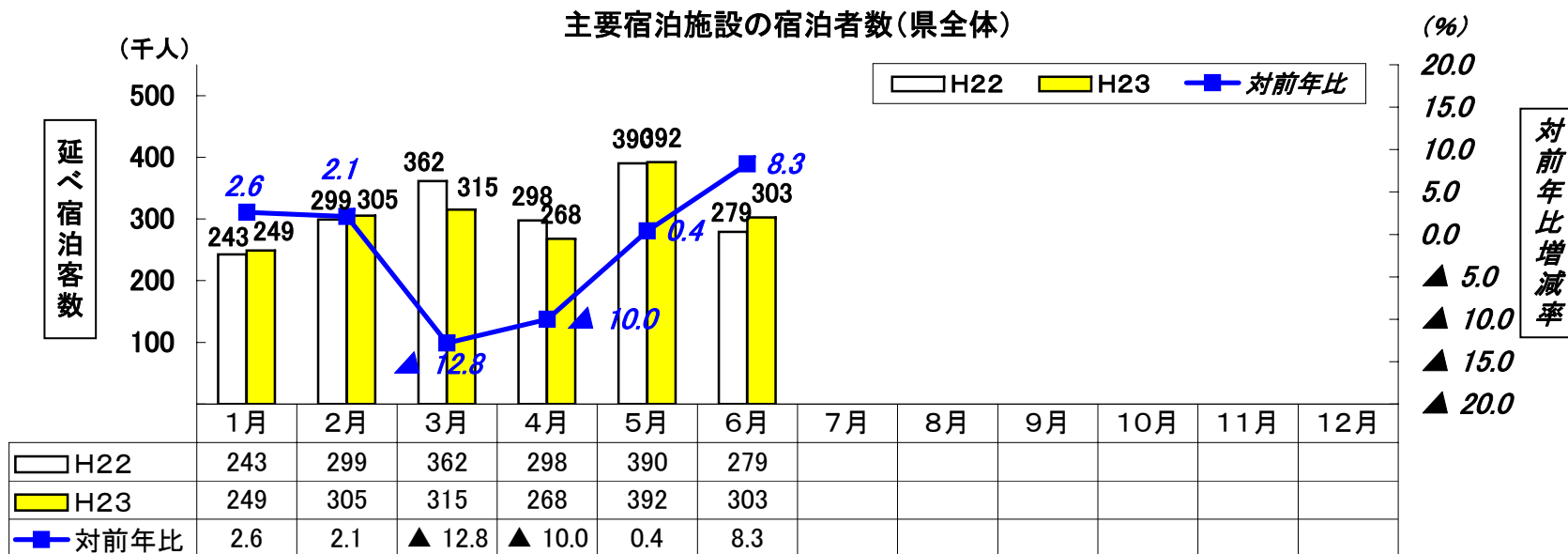
東日本大震災の影響により、対馬 釜山間の航路が一部休止したため、韓国人観光客が大幅に減少し、4～6月期全体の宿泊客数は対前年 42.2%となった。

(参考) 外国人観光客の動向(ご協力いただいた施設のみのサンプル調査)

外国人宿泊客数は、震災直後に比べ徐々に回復しつつあるものの、依然として大幅な減少となっている。また、燃油サーチャージの上昇や、円高もマイナスに作用している。

参考資料 主要宿泊施設・観光施設の月別動向（県全体）

主要宿泊施設の宿泊者数（県全体）



主要観光施設の利用者数（県全体）

